

九州シンクロトロン光研究センターシンポジウム

「ベイズ計測～現状と展望～」

近年、データ駆動科学の手法を用いたデータ解析により、計測で得られたデータから情報を余すことなく抽出し、科学を前進させる試みが進んでいる。特に本シンポジウムのテーマであるベイズ計測は、様々な測定の実験に導入され、成果が得られている。本シンポジウムがこのベイズ計測が皆様の解析・計測を進化させる契機となることを期待して、10月16日13時から九州シンクロトロン光研究センターにて「ベイズ計測～現状と展望～」と題してシンポジウムを開催する。

プログラム

13:00-13:05 開会の挨拶

セッション1「ベイズ計測～これまでの展開とこれからの展望～」

13:05 -14:05 基調講演 「ベイズ計測と放射光科学」

東京大学・岡田 真人

14:05-14:25 講演1「ベイズ統合～真のマルチモーダル測定に向けて～」

熊本大学・水牧仁一朗

14:25-14:45 講演2「ベイズ計測による小角散乱法の試料モデル選択とパラメータの推定」

東京大学・林悠偉

14:45-15:00 休憩

セッション2「佐賀 LS、九州大学 BL への展開に向けて」

15:00-15:20 講演3「In situ X線吸収分光測定による表面合金ナノ触媒の電気化学的 CO₂還元特性の解明」

九州大学・小林 浩和

15:20-15:40 講演4「アノード酸化電極への適用を指向した DAFS の検討」

北海道大学・北野 翔

15:40-15:50 休憩

15:50-16:10 講演5「高分子フィルムの高温・高湿度環境制御測定と延伸過程の観察」

日東電工株式会社・湯峯 卓哉、上条 卓史

16:10-16:30 講演6「SAGA-LS BL11 における XAFS データ定量解釈への期待」

九州シンクロトロン光研究センター：瀬戸山 寛之

16:30-16:35 閉会の挨拶